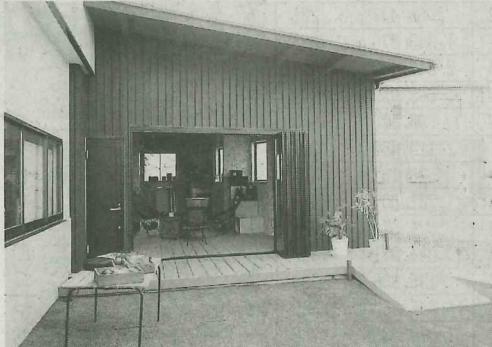


# 機能性とデザイン両立 アウトドア用品開発の新施設が完成

## エーモン工業



おしゃれなガレージハウスをイメージしたOGC BASE

自然と活発な議論が生まれる  
(写真右が原口課長)

「クルマとアウトドアをつなぐ」をコンセプトに掲げたブランド「OGC」を運営するエーモン工業（川岸浩一社長、兵庫県福崎町）。長年、カー用品を製造・販売してきた同社ならではの視点で、機能性とデザインを両立したアウトドア用品を販売する。昨今のキャンプブームで異業種の新規参入が相次ぎ、市場は競争が激化している。2020年にブランド

「クルマが趣味の男性が格好いい」と思える空間にしたかった」と話すのは、製品開発部デザイン課の原口すみれ課長。ベースのプロデュースを担当し、9月の構想開案を目指す。

始から2カ月で完成にこぎつけた施設はキャンプサイトを模しくなってきた。新しい遊びの提案

を立ち上げた同社も「クルマとアウトドアの組み合わせも珍しくなった」と危機感を抱いており、新施設「OGC SITE（サイト）」の敷地内に開設した。

イメージしたのは秘密基地のようなワクワク感のあるガレージハウス。壁面には自分自身で工作などをを行うDIYとの相性が良いSB（薄く細長い木片を重ね接着剤で圧縮・成型した合板）を採用し、照明は角度を変えられるよう社員自ら設置した棚や有孔ボードにするなど細部までこだわった。SBには自社のキャンプ道具が収納されている。

「製品やパッケージのデザインがOGCのコンセプトと離れていないか、統一感があるかな」と、ここに並べると「一目瞭然」（同）という。アウトドアチエアやブリックボードも設置し、商品開発やミーティングスペースとしても活用していく。

川岸社長は「OGCベースができたことで、OGCサイトに自宅のガレージと庭という新たなイメージが与えられた。ここから次の商品を世に送り出していきたい」と期待を込める。（神戸）